

A 県立単科精神科病院外来患者を対象に、社会機能（PSP）とケースマネジメントの視点から医療・福祉支援ニーズを明らかにするため、診療記録を用いた後ろ向き調査を実施した。分析対象 1780 名を潜在クラス分析により 4 群（支援ニーズなし群 75.7%、生活支援ニーズ群 9.8%、病状支援ニーズ群 8.1%、全面的支援ニーズ群 6.5%）に類型化した。約 4 分の 1 に支援ニーズが認められ、生活支援群は若年・生活保護受給・社会機能低下と関連した。支援ニーズは診断名より社会機能との関連が強く、類型化は見えにくいニーズの可視化と外来支援の標準化、多職種連携による継続的ケースマネジメント体制構築に有用である。